

 住友金属鉱山株式会社

証券コード 5713

第88期 報告書

2012年4月1日-2013年3月31日

株主のみなさまへ





株主のみなさまには、
平素より格別のご支援を賜り、
厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第88期
(2012年4月1日から2013年3月31日まで)
のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

中里 佳明

目次

- ① Top Message
- ⑤ 連結業績ハイライト
- ⑦ [特集]株主アンケート集計レポート
- ⑨ トピックス
- ⑪ 連結財務諸表(要約)
- ⑬ 会社情報
- ⑬ 株式状況
- ⑭ 株式メモ

1 第88期連結決算の概要について

期後半の円安もあり、前期比増益となりました。

当期の世界経済は、米国では回復基調となったものの、欧州では依然として低迷が続きました。また、中国をはじめとする新興国はやや景気減速傾向となりました。

非鉄金属価格は、需要の低迷により全体的に軟調となりました。またエレクトロニクス業界ではスマートフォン向け電子部品が夏以降は在庫調整局面に入るなど、需要は伸び悩みが見られました。

このような状況の中、当社の連結売上高は、主にニッケル価格の下落などの影響により前期比約5%減少し8,085億円となりました。連結経常利益は、銅・ニッケル価格の下落による悪化はありましたが、12月以降急速に進んだ円安により在庫評価益および為替差益が発生したことにより、前期比約6%増加し1,150億円となりました。

連結業績ハイライト



2) 2009年中期経営計画 (09中計)の振り返り

長期ビジョンに向け大型プロジェクトを推進しました。

09中計では、コアビジネスを「資源」「製錬」「材料」の3事業とし、経営資源の選択と集中を積極的に進めてまいりました。09中計期間には

- ・シエラゴールドプロジェクトへの参画
- ・海外銅鉱山での大規模な拡張プロジェクトの推進
- ・タガニートプロジェクトの推進
- ・ニッケル工場の年間6万5千トン生産体制の推進

といった、長期ビジョンで掲げた目標に向けた施策の大きな進展がありました。

業績面では、金属価格・為替水準は09中計策定時の前提から大きく変動したものの、最終年度である2012年度は中計試算の経常利益1,100億円を上回る利益を上げることができました。

3) 2012年中期経営計画 (12中計)の概要

継続的な成長戦略の推進により、「世界の非鉄リーダー」「日本のエクセレントカンパニー」をめざします。

12中計では、当社のめざす姿として、「世界の非鉄リーダー」「日本のエクセレントカンパニー」を掲げました。「世界の非鉄リーダー」とは、国内外で鉱山・製錬所を自社でオペレーションし、生産量が世界5位以内に位置することと定義づけています。そして、優良な資源を確保するとともに、それらの資源を地金に製錬し供給することにより社会に貢献し、さらに非鉄金属を使用する材料事業で付加価値を追求することをめざす姿としています。

また「日本のエクセレントカンパニー」とは、確固とした経営理念・経営ビジョンをもち、経営の柱としてコーポレートガバナンス・CSR活動を実践するという強固な経営基盤のもとで、成長戦略を継続的に実現することにより売上高1兆円・当期純利益1,000億円の規模と収益力を有する企業と定義しました。

■ 当期純利益 (左軸)

866 億円

● 年間1株当たり配当金 (右軸)

34 円



タガニートプロジェクト(フィリピン)

これに向け、これまで進めてきた大型プロジェクトの着実な立ち上げを重点項目として取り組んでいきます。

資源事業では、2014年に操業開始を予定しているシエラゴルダ銅鉱山プロジェクトを確実に立ち上げていきます。また、当社が権益を保有しているモレンシー銅鉱山では大規模な増産プロジェクトが進んでおり、2014年

の稼動が予定されています(P10をご参照ください)。このほか、同じく権益を保有するセロベルデ銅鉱山でも拡張計画が進められています。当社はこれらのプロジェクトに積極的に関与し、着実に推進していきます。

製錬事業では、2009年に実施を決定した、ニッケルのタガニートプロジェクトが、今年秋に操業を開始します。これにあわせ、タガニートで生産した中間原料を受け入れるニッケル工場でも増産体制が完成しており、これでニッケル生産量10万トン／年体制が完成することになります。さらに引き続き、長期ビジョンのターゲットである15万トン／年体制に向け、検討を進めていきます。

材料事業では、電池材料など環境・エネルギー向け分野を成長事業と位置づけ、事業拡大を図っていきます。



愛刈鉱山(鹿児島県)



ニッケル工場(愛媛県)

4 配当方針について

**期末の配当金は
20円とさせていただきます。**

09中計期間の配当性向は20%以上とする方針としており、2012年度の配当金は34円(中間14円、期末20円)とさせていただきます。配当性向は21.9%となります。また、年間34円は当社としてはこれまでで最も多い配当額となります。

なお、12中計では期間中の配当性向を25%以上へと引き上げる方針としています。2013年度からはこの方針に基づいて配当を行っていく予定です。

5 株主のみなさまへの メッセージ

**引き続き成長戦略の推進により
企業価値の向上を図っていきます。**

2012年末からの円安傾向は当社業績にとって大きな追い風となっていますが、一方で世界経済の先行きとそれに連動する非鉄金属市況は不透明な状況が続いています。こうした中においても、12中計で掲げた戦略を推進し、着実に達成していくことが重要と考えています。本年秋のタガニートプロジェクトの稼働は、当社の企業価値向上に大きく貢献するとともに、これにより「世界の非鉄リーダー」というめざす姿に一步近づくこととなります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



磯浦工場・電池材料製造工程(愛媛県)



新入社員研修

連結業績ハイライト

資源セグメント

セグメント利益

652億34百万円



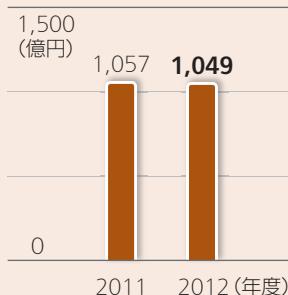
当期業績概要について

- ▶ 菱刈鉱山の操業は順調に推移しました。
- ▶ ポゴ金鉱山では、鉱石品位の低下の影響により生産量が減少しました。
- ▶ 海外銅鉱山では、モレンシー銅鉱山の生産は順調に推移しましたが、カンデラリア銅鉱山、セロベルデ銅鉱山の生産は鉱石品位の低下の影響などにより減少しました。

今後の展望

- ▶ 銅は、シエラゴルドプロジェクトを引き続き推進していきます。また、既に権益を保有している海外銅鉱山の拡張プロジェクトを進めていきます。
- ▶ 金では、菱刈鉱山の2013年度の生産量は7.0トン、ポゴ金鉱山の生産量は10.8トンを計画しています。
- ▶ 引き続き、操業中の鉱山の周辺探鉱を推進するとともに、開発案件への参入を検討していきます。

■ 売上高



■ セグメント利益



製錬セグメント

セグメント利益

339億28百万円



当期業績概要について

- ▶ 銅製錬では、東予工場が前期に全面炉修工事を終えたことから、今期は大幅な増産となりました。
- ▶ ニッケル製錬では、コーラルベイニッケル社の操業は順調で、前期比増産となりました。また、ニッケル工場の操業も順調に推移しました。

今後の展望

- ▶ 銅製錬では、コスト競争力の強化を図っていきます。
- ▶ ニッケル製錬では、ニッケル工場の増産起業はほぼ完成し、タガニートプロジェクトは本年秋の操業開始を予定しています。これにより、目標としていた10万トン／年体制での操業がスタートします。

■ 売上高



■ セグメント利益



注)セグメント間の取引が発生しており、当社の売上高として公表している数値はこれを消去した外部売上高の合計です。各事業の売上高、セグメント利益はセグメント間取引を消去する前の金額

材料セグメント

セグメント利益

37 億 76 百万円

セグメント
利益構成比

3.7%

当期業績概要について

- ▶ 電池材料は、ハイブリッドカー向け需要が好調だったことから、販売が増加しました。
- ▶ リードフレームは、半導体向け需要を中心に底堅い受注状況が続きました。
- ▶ ボンディングワイヤー事業から撤退したことにより、セグメント売上高は減少しています。

今後の展望

- ▶ 電池材料は、自動車向けを中心とした二次電池市場に向け、販売拡大を図っていきます。また、将来の次世代自動車に向け、引き続き研究開発を進めていきます。
- ▶ リードフレーム事業については、日立電線株式会社との事業統合により、強化を図っていきます。

※2012年7月の組織改正により、材料セグメントの区分が変更されています。本ページは新区分で表示しています。

■ 売上高



■ セグメント利益



を表記しております。セグメント利益構成比は、3セグメント合計に対する比率を表記しております。



シエラゴルドプロジェクト(チリ)

■ [特集] 株主アンケート集計レポート

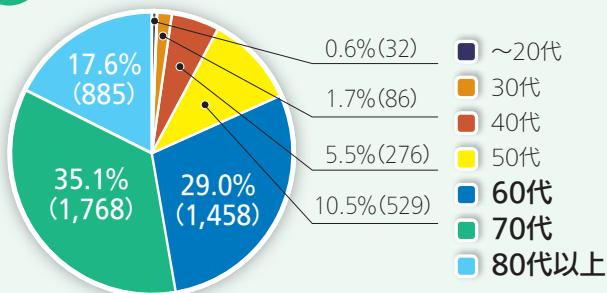
株主様より多くのアンケートのご回答をお寄せいただきました。

昨年12月に発行した「株主のみなさまへ」(第88期中間報告書)にあわせ、アンケートを実施させていただきましたところ、多くの株主様よりご回答をお寄せいただきました。お忙しい中ご協力いただき誠にありがとうございました。

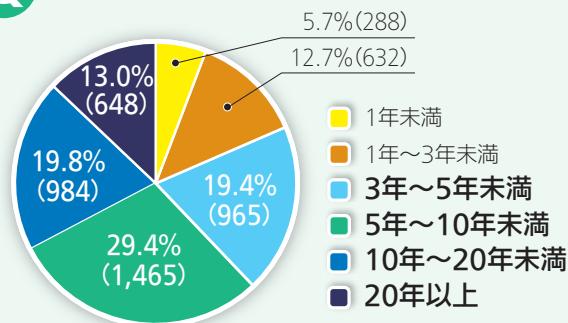
下記に一部ではありますが、ご回答の集計結果をご報告いたします。

アンケート回答数：5,048件
アンケート返信率：11.9%

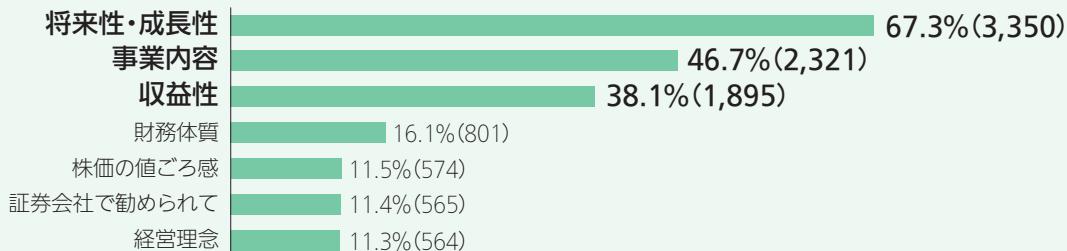
Q ご年齢



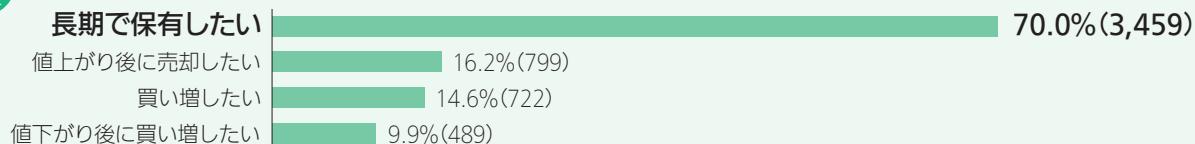
Q 保有期間



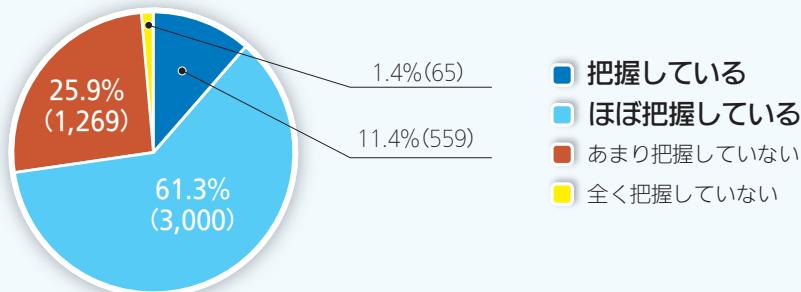
Q 購入理由 (複数回答可)



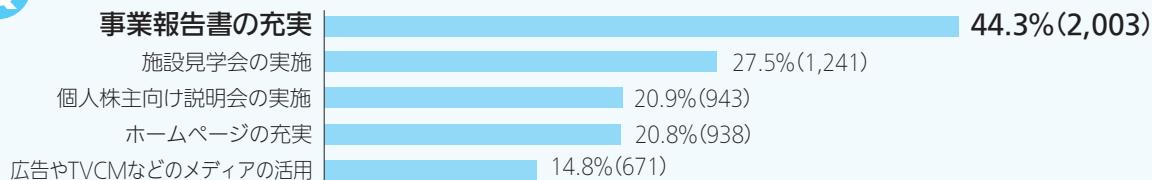
Q 保有方針 (複数回答可)



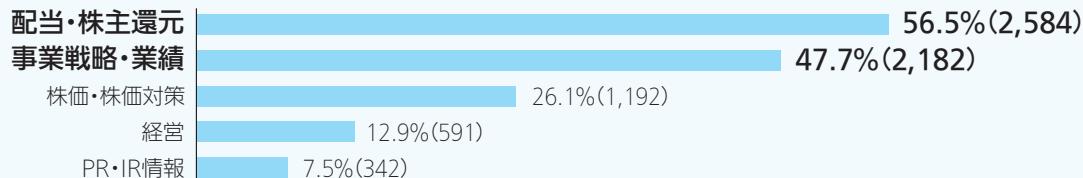
Q 事業内容についてどの程度ご存じですか？



Q IR活動で期待するものは何ですか？ (複数回答可)



Q 積極的に発信を望む情報は何か？ (複数回答可)



いただいたご意見を今後の経営やIR活動の参考とさせていただきます。
ご協力いただきありがとうございました。

トピックス

住友金属鉱山の今がわかる、注目トピックスを時系列にまとめてご紹介します。

2012年 10月

11月

12月

2012年 4月～9月期 注目トピックス

4月 7月 7月 10月 10月

4月 車載用二次電池正極材料の生産設備の増強

7月 材料事業の組織改正実施

7月 中国における販売・管理会社の営業開始

10月 菱刈鉱山における下部鉱体の開発を決定

10月 研究開発体制の強化について

菱刈鉱山30周年 & 累計産金量200トン達成

菱刈鉱山(鹿児島県伊佐市)は、1982年に開発を始めて以来、2012年で30周年を迎えるとともに、10月末には累計産金量が200トンに達しました。

菱刈鉱山では1983年初めより坑道掘進に着手し、1985年7月に着脈、出鉱を開始しました。近代的な鉱山開発による安定した操業と極めて高い金品位に恵まれたことにより、初出鉱以来27年4ヶ月で累計産金量200トンを達成しました。これは、国内第2位の佐渡金山(1989年採掘中止、約80トン)の倍以上の量で、日本最大の生産量となっています。

2012年12月末での菱刈鉱山の埋蔵金量は169トンとなっています。今後も、菱刈鉱山は安定した操業の継続と新規の産金獲得に努めていきます。

サファイア大型基板の量産体制を構築

当社が子会社の大口電子株式会社(鹿児島県伊佐市)で2012年初めより工事を進めてきた、サファイア大型基板の生産ラインが完成しました。

サファイア基板は、白色・青色LED用基板として使用されています。白色LED市場が一般照明用途へと拡大する中で、LEDメーカーにとって生産性向上が図れる大型基板に対する需要が高まってきています。

6インチの大型サファイア基板の生産には、大型結晶の育成技術が必要となります。当社はこのたび直径約30cm、重量約80kgのサファイア大型単結晶を短期間に育成できる技術を確立し、大型基板としては世界トップクラスの量産体制を構築しました。

当社は、今後も環境・エネルギー分野向けの材料開発を強化し、材料事業の成長戦略を推進していきます。



菱刈鉱山(鹿児島県)



サファイア基板

2013年 1月

モレンシー銅鉱山 増産プロジェクトへ参画

当社は、権益を保有するモレンシー銅鉱山（米国アリゾナ州）で進められている増産プロジェクトへの参画を決定しました。

モレンシー銅鉱山は、米国最大手の産銅会社であるフリーポート・マクモラン・カップパー・アンド・ゴールド社が運営しており、当社は1986年に参画しています。今回の増産プロジェクトでは、現在の年間28万トンの生産量を40万トンに拡張する計画で、2014年第3四半期にフル生産開始の予定となっています。

当社は長期ビジョンとして銅の権益シェア分生産量30万トン/年をめざしています。今回の増産プロジェクト参画は長期ビジョン達成に寄与することとなります。



モレンシー銅鉱山(米国アリゾナ州)

2月

東証「なでしこ銘柄」に選定

当社は東京証券取引所より発表されたテーマ銘柄「女性の活躍(なでしこ銘柄)」に選定されました。東証では、日本経済応援プロジェクト「+YOU(プラス・ユー)～一人ひとりがニッポン経済」の活動の一環として、テーマ銘柄を抽出し、公表する取り組みを行っています。第3回目となる今回は「女性の活躍」をテーマに17社が選定されました。

当社は現在、女性が結婚や出産を機に仕事を辞めることなく、長く職場で活躍できるような機会の拡大に向けた施策を展開しています。当社はこれからも企業としての競争力を高め持続的発展をめざすために、女性を含め多様な従業員がより活躍できる職場になるよう取り組みを進めていきます。



女性活用検討チーム

3月

スカンジウム回収 パイロットプラントの建設

当社は、レアアースの一つであるスカンジウムの回収のためのパイロットプラントを、コーラルベイニッケル社(フィリピン国パラワン島)に建設することを決定しました。

コーラルベイニッケル社ではニッケル中間原料を生産しておりますが、その原料鉱石中には微量のスカンジウムが含まれています。これまで回収方法の開発に取り組んできましたが、このたびニッケル・コバルト混合硫化物の製造工程からスカンジウムを効率的に回収する技術を確認しました。

スカンジウム回収のパイロットプラントは2013年に建設し、2014年には月10kgレベルの試作を開始します。また、パイロットプラントでの操業試験の結果を踏まえ、2015年を目途に商業規模のスカンジウム生産ラインを建設し、事業化をめざしていきます。



コーラルベイニッケル社(フィリピン)

■ 連結財務諸表(要約)

当期の売上高は、ニッケル価格が下落したこと、および材料部門においてボンディングワイヤー事業から撤退したことなどにより、前期と比べ394億円減少し8,085億円となりました。

経常利益では、12月以降の急速な円安で在庫評価益および為替差益が発生したことなどにより、前期と比べ62億円増加し1,150億円となりました。当期純利益は、前期には減損などの特別損失が発生しましたが当期は発生しなかったことにより、前期と比べ214億円増加し866億円となりました。

連結損益計算書 (単位：百万円)	当期	前期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
売上高	808,540	847,897
売上原価	667,890	715,476
売上総利益	140,650	132,421
販売費及び一般管理費	44,865	43,844
営業利益	95,785	88,577
営業外収益	28,469	29,801
営業外費用	9,220	9,549
経常利益	115,034	108,829
特別利益	9,389	598
特別損失	1,968	21,465
税金等調整前当期純利益	122,455	87,962
法人税等合計	28,905	19,482
少数株主利益	6,910	3,194
当期純利益	86,640	65,286

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)	当期	前期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	114,665	144,999
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 88,745	△ 135,932
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,549	50,314
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,514	△ 1,984
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	53,983	57,397
現金及び現金同等物の期首残高	185,708	128,311
現金及び現金同等物の期末残高	239,691	185,708

売上高

8,085 億円

前期比
4.6%減

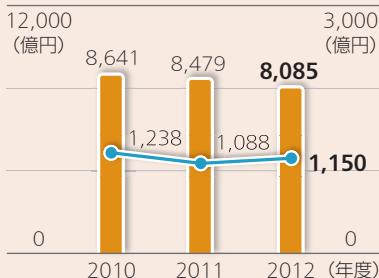
経常利益

1,150 億円

前期比
5.7%増

■ 売上高(左軸)

● 経常利益(右軸)



■ 1株当たり純利益(左軸)

● 1株当たり配当金(右軸)



当期末の資産は、タガニートプロジェクトおよびシエラゴルダ銅鉱山への投資による増加、また円安による海外資産の評価額増加により、前期末と比べて2,044億円増加し1兆3,512億円となりました。負債についてはプロジェクト資金として借入金が増加したことにより、前期末と比べて859億円増加し5,066億円となりました。純資産については当期純利益の積み上げにより、自己資本が増加しています。自己資本比率は、負債が増加したことにより若干低下していますが、56.9%と引き続き健全な水準を維持しています。

連結貸借対照表 (単位：百万円)	当期末 平成25年3月31日	前期末 平成24年3月31日
資産の部		
流動資産	550,252	499,495
固定資産	800,901	647,264
有形固定資産	342,067	291,222
無形固定資産	10,381	10,411
投資その他の資産	448,453	345,631
資産合計	1,351,153	1,146,759
負債の部		
流動負債	211,386	186,953
固定負債	295,220	233,767
負債合計	506,606	420,720
純資産の部		
株主資本	792,051	730,036
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	86,062	86,063
利益剰余金	644,642	572,576
自己株式	△ 31,895	△ 21,845
その他の包括利益累計額	△ 22,801	△ 70,316
少数株主持分	75,297	66,319
純資産合計	844,547	726,039
負債純資産合計	1,351,153	1,146,759

総資産

13,512 億円
前期末比 17.8%増

自己資本

7,693 億円
前期末比 16.6%増



会社情報

会社概要 (2013年3月31日現在)

商号 住友金属鉱山株式会社
Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.
本社所在地 東京都港区新橋五丁目11番3号
創業 天正18年(1590年)
設立 昭和25年(1950年)
資本金 932億円
従業員数 連結:8,370名 単独:2,143名

取締役および監査役

(2013年6月24日現在)

取締役会長 家守 伸正*

取締役社長 中里 佳明*

取締役 川口 幸男*

久保田 毅

土田 直行

緒方 幹信

佐藤 元

社外取締役 牛嶋 勉

常任監査役 田尻 直樹(常勤)

監査役 中重 一雄(常勤)

社外監査役 三和 彦幸

野崎 茂

注 *印は、代表取締役です。

執行役員

(2013年6月24日現在)

社長 中里 佳明

専務執行役員 川口 幸男

久保田 毅

山崎 融

土田 直行

常務執行役員 伊藤 敬

橋本 安司

緒方 幹信

飯島 亨

池田 和夫

執行役員 後根 則文

黒川 晴正

杉浦 卓

佐藤 元

小田 浩久

角谷 博樹

浅井 宏行

山際 雅幸

森本 雅裕

野崎 明

株式状況

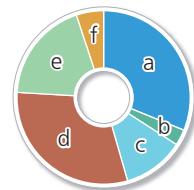
株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株
発行済株式総数 581,628,031株
株主数 55,453名
(うち単元未満株主数13,832名)

株式分布状況 (2013年3月31日現在)

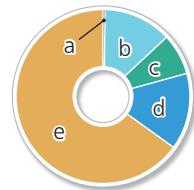
所有者別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 金融機関	181,293,930	31.17
b 証券会社	17,379,091	2.99
c その他の法人	66,347,513	11.41
d 外国法人等	176,769,308	30.39
e 個人その他	110,427,562	18.99
f 自己名義株式	29,410,627	5.05



所有株式数別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 1~999	2,267,262	0.39
b 1,000~9,999	73,763,834	12.68
c 10,000~99,999	44,500,825	7.65
d 100,000~999,999	82,771,985	14.23
e 1,000,000~	378,324,125	65.05



事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

株主総会

定時株主総会 毎年6月
臨時株主総会 必要の都度

基準日

定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)
0120-782-031

公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

株式に関するお届けおよびご照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様をご所有の単元未満株式(1~999株)を当社が買取らせていただく制度がございます。また、株主様をご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的にお振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

当社ホームページのご案内

ホームページでも、投資家情報をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

<http://www.smm.co.jp/>





当冊子についてのお問合せ先

 **住友金属鉱山株式会社** 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215